

▼マブキャンパス点滴静注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 アレムツズマブ (遺伝子組換え) alemtuzumab (genetical recombination) 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [ヒト化抗CD52モノクローナル抗体]

【単位】 ▼30mg/V [1mL]

【常用量】 3mg 連日から開始し, 10mg 連日に増量し, 30mg を週3回隔日投与 [投与開始から12週まで] ■Grade3以上のinfusion reactionがなければ増量可

【用法】 2時間以上かけて点滴静注 ■生食または5%ブドウ糖100mLに希釈 ■premedicationを行う

【透析患者への投与方法】 設定されていない (1) がおそらく減量の必要はない (5)

【保存期 CKD患者への投与方法】 設定されていない (1) がおそらく減量の必要はない (5)

【特徴】 CML細胞やリンパ球の細胞表面上に発現するCD52を標的とするヒト化IgG1モノクローナル抗体。再発又は難治性の慢性リンパ性白血病に適用。

【主な副作用・毒性】 血球減少, infusion reaction, 感染症, 腫瘍崩壊症候群, 免疫障害, 心障害, 出血, 進行性多発性白質脳症, B型肝炎ウイルスによる劇症肝炎, 肝炎の増悪, 肺炎, 尿路感染, 副鼻腔炎, 低Ca血症, 低K血症, 精神障害, 頭痛, めまい, 頻脈, 消化器症状など多数

【tmax】 2~4hr (1)

【代謝】 ペプチド加水分解を通して代謝的に分解 (1)

【排泄】 分解されて処理される (1)

【CL】 30mg投与時, 初回17mL/hr/kgから最終2mL/hr/kgに低下 (1)

【t1/2】 30mg投与時, 初回10.7hr, 最終147hr (1)

【蛋白結合率】 資料なし (1)

【Vd】 0.11~0.18L/kg (1)

【MW】 約150,000

【透析性】 資料なし (1) 除去されないと思われる (5)

【薬物動態】 ミカエリス・メンテン型の消失過程を有する2-コンパートメントモデルに適合 (1)

高いトラフ濃度は高い有効率に関連 (Mould DR, et al: Br J Clin Pharmacol 64: 278-91, 2007 PMID: 17506867) 血中濃度の個人差は大きく, 一部は病状, 可溶性CD52などにより影響を受ける (Elter T, et al: Leuk Lymphoma 49: 2256-62, 2008 PMID: 19052972)

【O/W係数】 該当しない (1)

【相互作用】 ワクチン類, 免疫抑制剤と併用注意 (1)

【備考】 単独ルート, 他剤と混注不可 (1)

【更新日】 20180409

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。